

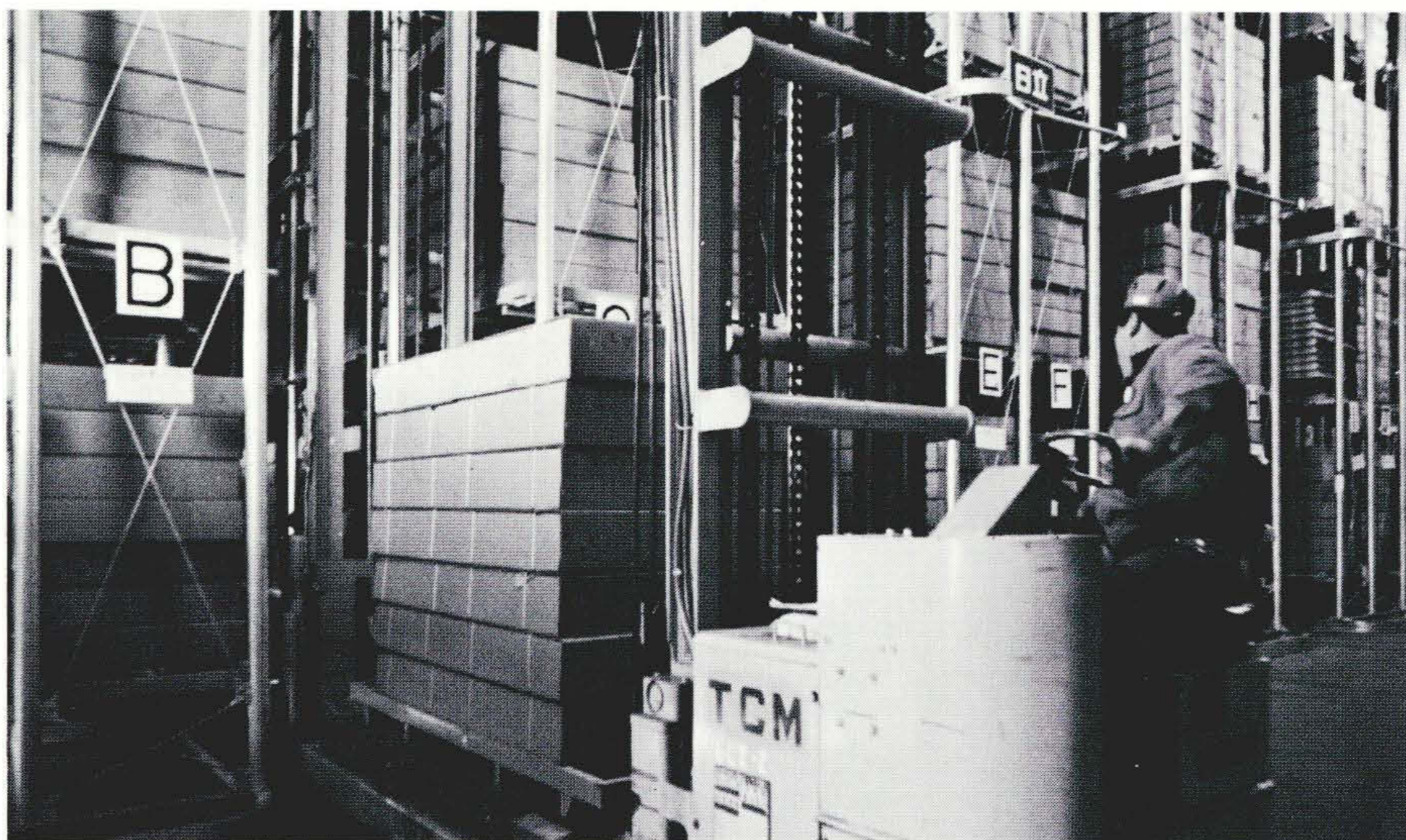
ミニコンピュータによる 物流管理システム

従来、物流管理システムでは集中管理方式が大半を占めていたが、インテリジェントターミナルの普及に伴い分散形処理方式のオンラインシステムが増加してきている。

集中処理方式では、営業部門などで売上や在庫などの情報入手が遅れる、管理資料入手のタイミングがずれるなどの不満があり、そこでデータの発生現場にターミナルを設置し、必要なデータ処理を行なって、伝送回線で本社と結び中央へのデータ入力を行なう方式が考えられた。これが分散処理方式で、安価なターミナルの出現と公衆回線利用によるコスト低減も、この処理方式増加の一助となっている。

日立製作所は、このニーズに応じてインテリジェントターミナルとして、HITAC 85やH-1740データエントリースystemを開発した。

昭和アルミニウム株式会社でも、昭和50年春から物流システムを再検討し分散形処理方式のオンラインシステムを採用した。従来は、売上原票を各支店から本社へ郵送するか、又はテレックスで送信し、本社のHITAC 8350で集中処理を行っていたが、これでは(1)締切日までに全国のデータが収集できない。(2)誤りデータの修正に時間が



かかる。(3)アウトプットのタイミングがずれるなどの問題があった。そこで、各支店にインテリジェントターミナルHITAC 85を、本社にミニコンピュータHITAC 20を配置し、公衆回線によるネットワークを形成した。

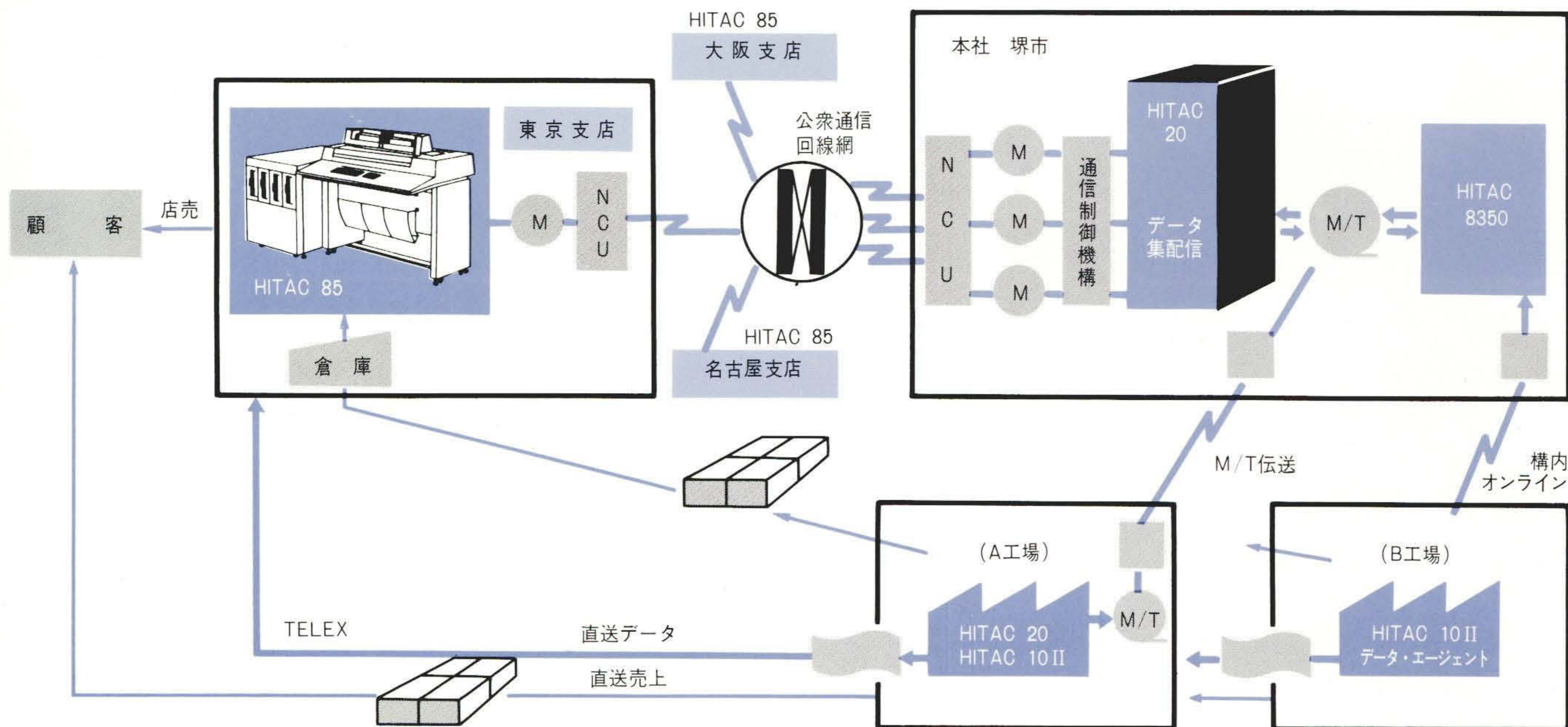
各支店の売上データは、HITAC 85に入力され、伝票の発行、日計表の作成が行われた後、本社に送信される。本社のHITAC 20で収集されたデータは、磁気テープを介してHITAC 8350に入力され全社的な処理が行われる。

また、各工場から顧客へ直送される製品の売上データは、各支店へ配信される。すなわち、各支店へのテレックス及び磁気テープにより本社のHITAC 8350で処理された後、HITAC 20で各支店へという2系統がある。各支店の

HITAC 85は売上傳票や請求書の発行を行なう。

このようなネットワークシステムの建設で、各支店では(1)売上傳票のチェックが正確、迅速になり、(2)日計表が各支店ですぐに作成され、(3)本支店間のデータ交換が円滑、かつ迅速になった。本社側では、(1)全国の売上データが正確かつ迅速になり、(2)ホストコンピュータのインプットが簡素化され、(3)エラーデータ修正のフォローが早くなるなど、著しい効果が上がった。

本システムは、昭和51年8月から実働に入ったが、今後は一般にも製品の動きに合わせたタイムリーな情報処理のため、インテリジェントターミナルと各種コンピュータとの組合せによるネットワークシステムが普及すると思われる。



物流管理システム関連図